

オーストラリアの落葉果実事情(生食用ブドウ)

米国農務省GAINレポート 2023年10月20日

これは米国農務省海外農業局キャンベラ事務所(オーストラリア)が作成した「生鮮落葉果実年次報告書」を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

オーストラリアの2023/24年度の生食用ブドウ生産量は、2022/23年度の推定21万トンから、史上最高の22万トンに増加すると予測される。この増加は主に、今シーズンこれまでの良好な生育条件と、収穫の終わりまで同様の生育条件が続くと予想される結果である。また、これらの条件により、2023/24年度には高品質の生食用ブドウが生産され、輸出市場に適した生産物の供給が増えることが期待される。生産量の増加と品質の向上により、2023/24年度の輸出量は史上3番目に多い14万トンと予測される。

中国は依然としてオーストラリアの生食用ブドウの主要な輸出先である。一方、オーストラリアは中国向けの供給国として上位3位以内の地位を維持するものと予想される。予測される史上最高の生産量により、2023/24年度の国内消費量は5%増加すると予想される。しかし、生産量に占める消費量の割合は、過去10年間の大まかな傾向に沿って減少するものと予想される。

生食用ブドウの概要

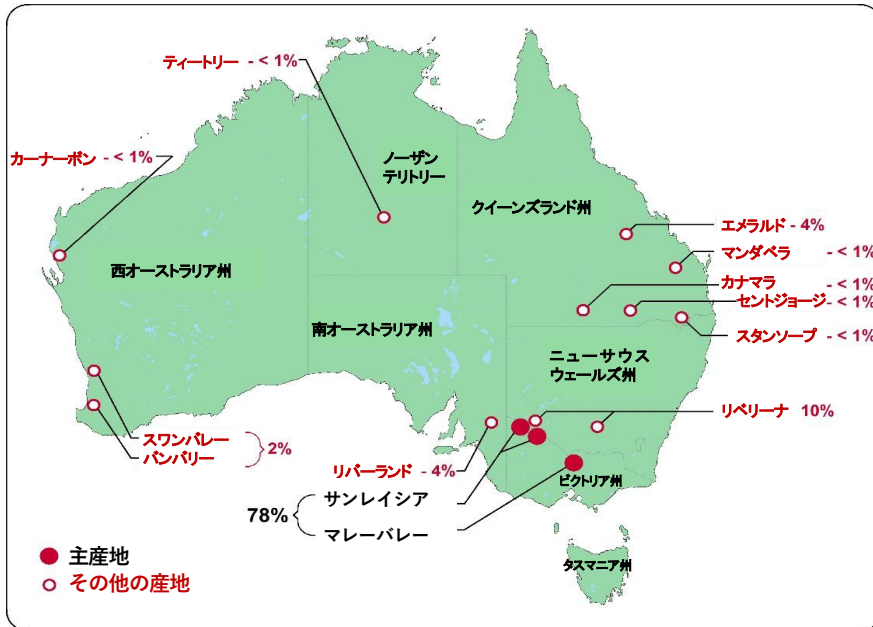
オーストラリアの生食用ブドウの大半は、ビクトリア州北部のサンレイシア地域とマレーバレー地域で栽培されており、出荷量の約78%を占めている(図1参照)。これに加えて、ニューサウスウェールズ州南部のリベリーナ地方の2つの地域が出荷量の約10%を占めている。これらの地域の主な特徴は、温帯気候であり、排水の良い砂壌土で、年間降雨量が約300ミリと少なく、そのほとんどが基本的に収穫期間の11月～5月ではなく、5月から10月に降ることである。冬は穏やかであるが、樹体が必要とする十分な寒冷期間がある。これらの地域は、ブドウの樹体の水需要を満たすため、灌漑に大きく依存している。これらの条件は発芽を促して潜在的収穫量を高め、春から秋までの降雨量の少なさと暖かい気温は降霜、過湿及び降雹のリスクを最小限に抑え、よく管理された点滴灌漑及び施肥計画と相まって作物の生育を最適化する。

他の重要な産地はこれらよりも北のクイーンズランド州、北部準州及び西オーストラリア州にあり、早く暖かくなり出荷時期が前倒しになるが、冬が暖かいため低温期間が短く、最適な産地とは言えない。しかし、これらの地域の生食用ブドウは、ビクトリア州の主要産地よりも早く成熟するため、主に国内市場向けの出荷期間の延長に貢献している。これらの地域では出荷量が相対的に少ないため、主に国内市場向けに、米国産ブドウの輸入が減少し始め、かつ国内の南部の主要産地の収穫が始まる前の時期に出荷している。

オーストラリアの生食用ブドウの出荷は、10月に北部準州のティートリー地域及びクイーンズランド州のエメラルド地域で始まり、西オーストラリア州のカーナーボン地域では11月上旬に始まる。さらに南の地域が徐々に収穫を開始するにつれて出荷量が増加し、最も南部のリベリーナ、マレーバレー、サンレイシアの各地域で大規模な出荷が始まる2月～3月に最盛期となる。これらの地域は、国内では最も遅く毎年5月頃に出荷を終了する。また、クイーンズランド州最北部のマリーバ地域や西オーストラリア州のブルーム地域からも非常に少量の出荷があり、輸入品と競合する6月下旬から7月にかけて収穫が始まる。これらの地域は、産地としてはまだ未成熟な段階にあり、現時点では果実の品質は安定していない。

オーストラリアの生食用ブドウ産業にとって重要で前向きなことは、生産者が面積を拡大しており、権利関係のある輸出志向の新品種に特化してきたことである。品種の選択は、中国などのアジア市場からの強い需要を背景にしている。中国の消費者は、次第にレッドグローブなどの種有り品種から離れて種無し品種に目を向けており、新しい品種や食味を試すことにも関心を持っている。

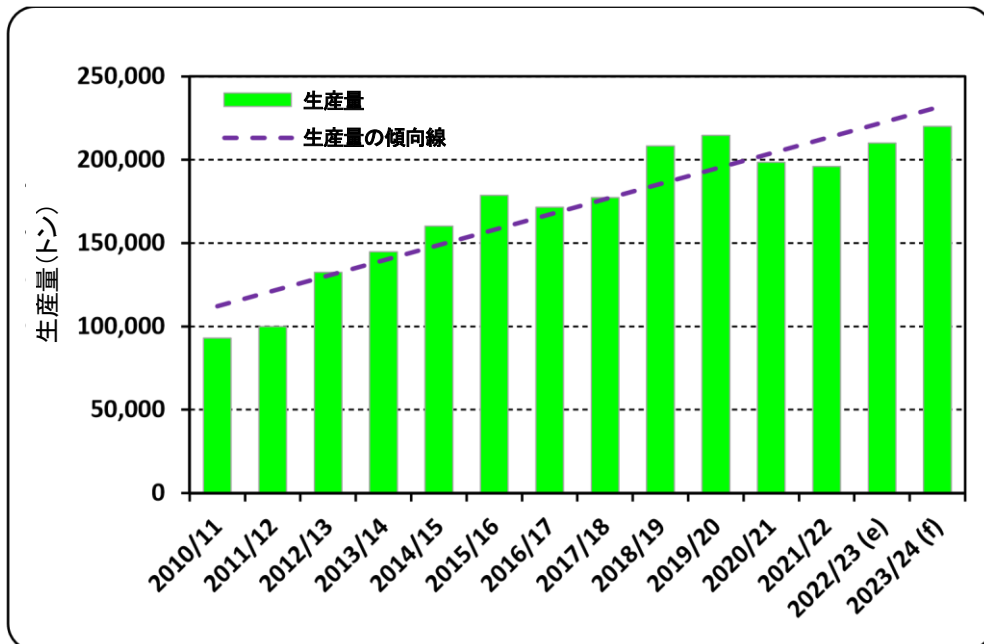
図1 オーストラリアの生食用ブドウ産地



出典: オーストラリア生食用ブドウ協会/Horticulture Innovation Australia

生食用ブドウ業界は、コロナ禍の前には毎年約20%ずつの栽培面積の増加があったと推定している。近年新植されたブドウ園では現在本格的な出荷が始まっており、生食用ブドウの総出荷量を引き続き押し上げるものと見込まれている。しかし、2020/21年度及び2021/22年度には、主にコロナ禍関連の収穫労働力不足と特に主要産地における平均以上の春の降雨によって出荷量が減少した(図2参照)。これらの困難な年には植栽が減少したと報告されているが、労働力確保状況の回復と生育条件の改善に伴い、全体的な植栽は生食用ブドウの生産の改善を達成するのに適した状況にある。コロナ禍以前の生産水準への回復の兆候は、2022/23年度シーズンに明らかに見られた。2023/24年度以降は、季節的な生育条件にもよるが、生産量のさらなる増加が予想される。

図2 オーストラリアの生食用ブドウの生産動向



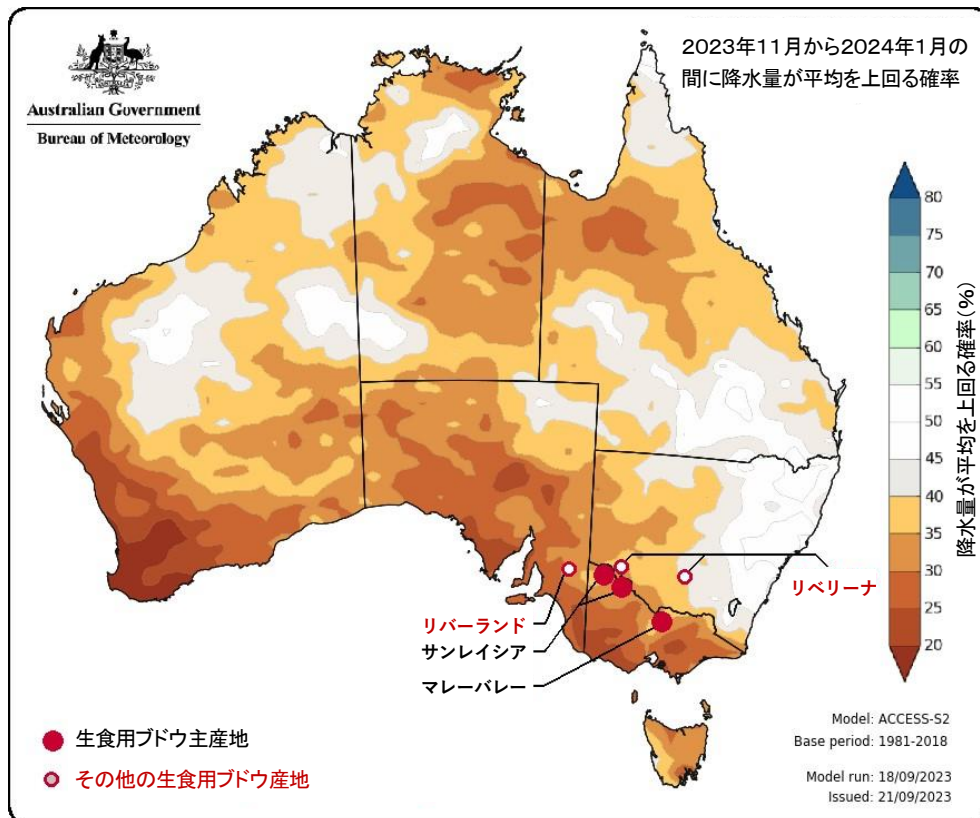
出典: Horticulture Innovation Australia 並びに当事務所の推計(e)及び予測(f)

生産

オーストラリアの生食用ブドウの生産量は、2022/23年度シーズンに推定21万トンに改善した後、2023/24年度には22万トンに増加すると予測される。実現すれば、コロナ禍による労働力不足と通常よりも多い降雨により生産量の伸びが止まる直前であった2019/20年度の21万4,700トンを超える史上最高水準の生産量となる。今シーズンは、現在の春先までの乾燥した状態と、晩春及び夏の通常よりも乾燥した状態の予報により、また灌漑用水が十分に利用可能であることから、生産者は樹体をより良く管理でき、病気の発生リスクが抑制される。これらの好条件により、高品質な果実で記録的な生産量を達成できる見込みがある。

まだ非常に初期の段階ではあるが、2023/24年度のシーズンが有望なスタートを切っており、2023年9月初旬には特にビクトリア州とニューサウスウェールズ州南部の主要産地で、望ましい生育条件により旺盛な発芽が見られたことが報告されている。この好条件に続いて非常に良好な房が形成され、有望な収穫量の可能性が示された。一方、平均をかなり上回る降水量があった過去3シーズンとは異なり、今シーズンはエルニーニョ現象(通常よりも暖かく、降雨が少ない)が宣言されている。オーストラリア気象庁は、2023年11月から2024年1月の期間に平年よりも乾燥した状態になるとの予報を出しており(図3参照)、主に十分な灌漑用水が利用できる場合にはこれは生産者に好都合である。通常よりも乾燥すると予報が続く場合は、真菌類の蔓延、過度の土壌水分、及び収穫に関連する問題のリスクが軽減する。特に春の過度の降雨が近年一部の主要産地で問題となったこととは対照的に、生産者は果実の肥大と品質をよりよく制御できるようになる。

図3 オーストラリアの降雨予測 2023年11月～2024年1月



出典: オーストラリア気象庁及び当事務所

現在の乾燥状態と今後数か月の平均以下の降雨の予測にもかかわらず、生食用ブドウ生産者は、水利権と臨時の水取引市場を通じて比較的低コストで十分な水を利用できる。オーストラリア東部の州で平均を大きく上回る降雨量があった過去3年間には、2017年から2019年の複数年に及ぶ干ばつに見舞われた貯水池の水が補充され、2022/23年度の灌漑シーズンの末期でさえ、貯水ダムはほぼ満水であった。

生食用ブドウの主産地であるマレーバレー、サンレイシア及びリバーランド各地域の主な灌漑用水源は、地域の南東にあるダートマスダムとヒュームダムである。2023/24年度シーズンの開始からかなり後の2023年10月初旬の時点で、これら2つの灌漑用貯水施設の貯水率は99%及び94%であった。リベリーナ地域が水を得ている、地域の東にあるブローダムとバリンジャックダムでは、同じ時期の貯水率が85%及び94%であった。この高い貯水率により、生食用ブドウ生産者は、灌漑用水とそのコストが制限要因にならないことを確信して現在のシーズンに臨むことができ、次の2024/25年度シーズンに関してもかなりの程度の自信を持つことができる。

2022/23年度の推計生産量に関しては、当事務所は20万トンから21万トンに修正した。このわずかな修正は、特に果実肥大期である早春の十分な降雨と穏やかな気温の影響で今シーズンが予想よりも良かったためである。この状況により通常以上の病虫害が懸念されたが、それは2022/23年度にはうまく管理された。

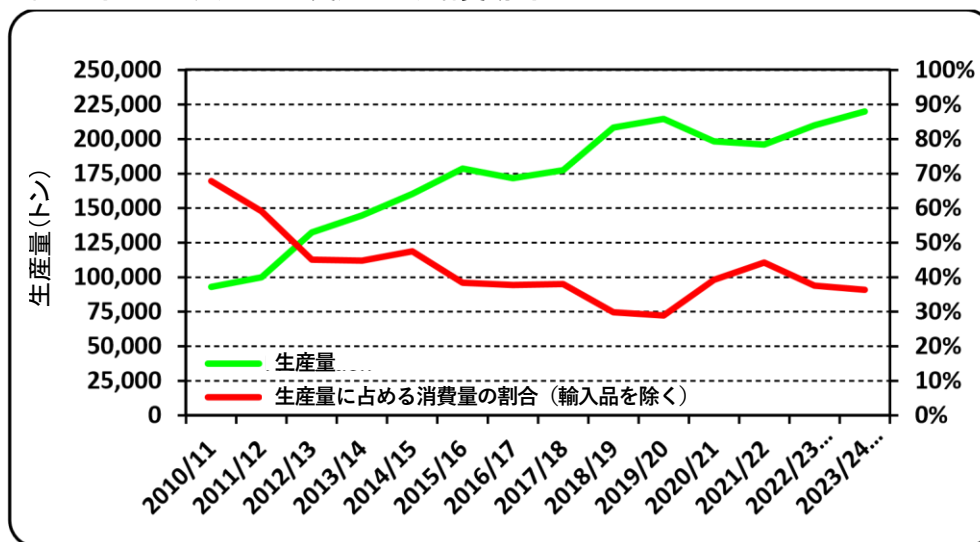
消費

当事務所は、生食用ブドウ消費量が2022/23年度の推定値8万5,800トンから、2023/24年には9万トンに増加すると予測する。2023/24年度の生食用ブドウ生産量の増加が見込まれており、その一部は国内の供給量と消費量の増加に貢献すると予想される。

国内産の生食用ブドウは主に12月から5月まで市場に出回り、ほぼ米国内産のみの輸入ブドウは7月から11月まで出回る。

年月の経過とともに生産量が増加するにつれて、国内消費は増加傾向を示しているが、生産量に占める国内消費量の割合は減少している(図表4参照)。国内消費量に影響を与える主な要因は、国内市場と比較して輸出市場で獲得できる価格差の程度、及び年ごとの果実の全体的な品質の変動である。一般的に、生産量が多いシーズンは、全体的に作物の品質も高くなる。生食用ブドウの品質が高いほど、輸出に適した果実の割合が高くなり、国内供給が制限される傾向がある。2023/24年度については、生産条件が改善され、生産量と品質が前年よりも高くなると予想される。消費量は5%増加すると予測されるが、生産量に占める消費量の割合は1%減少すると予想される。

図4 オーストラリアの生食用ブドウ消費動向



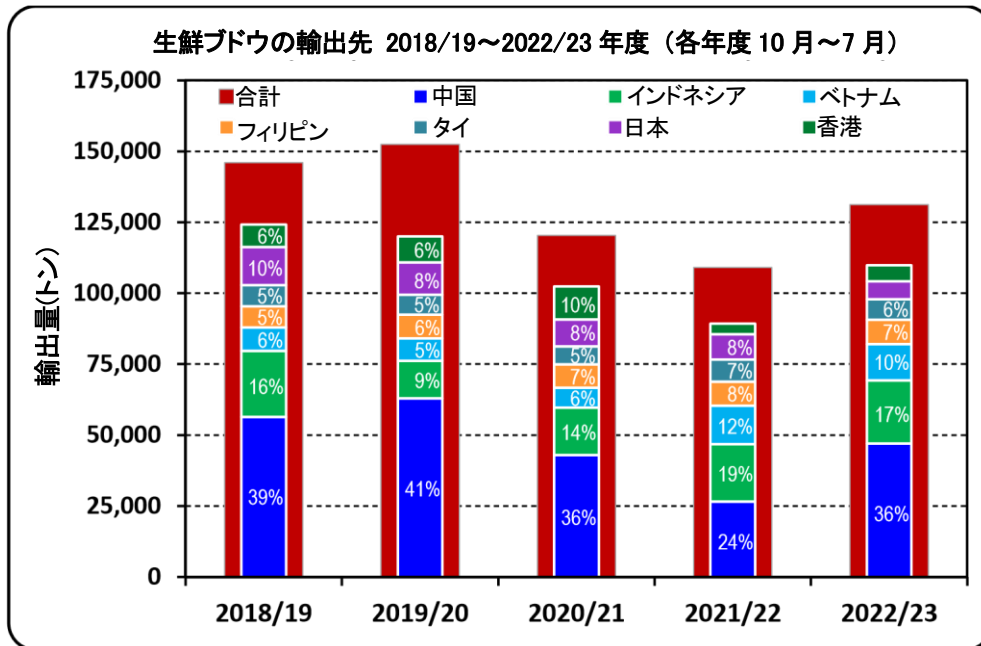
出典: 当事務所

貿易

2023/24年度の輸出量は14万トンと予測されており、2022/23年度の堅調な推定値13万1,200トンから7%増加する。実現すれば、複数年にわたり平均を大きく上回る降雨が生産量と品質に影響を与えたコロナ禍直前の2年間に続く、史上3番目に多い輸出量となる。2023/24年度の予測輸出量の前年度からの増加は、主に予測生産量の増加によるものである。

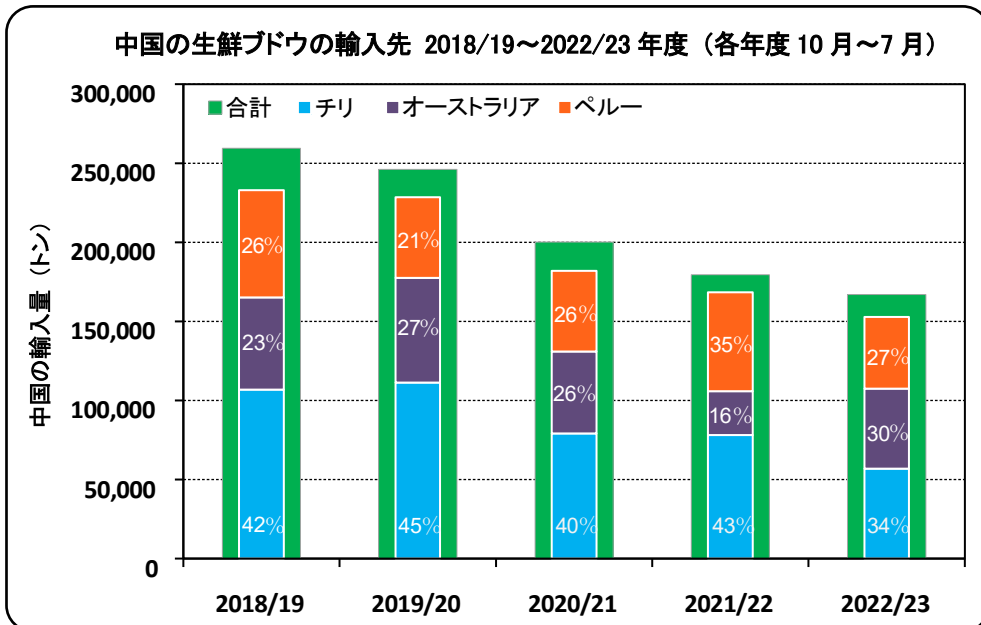
オーストラリアは生食用ブドウを主にアジア諸国に輸出している。過去10年で、輸出量は2010/11年度の2万9,900トンからピークであった2019/20年度の15万2,500トンに増加したが、その後はコロナ禍による労働力不足と異常に雨の多い春の気象条件のために減少した。この状況は生産量と品質に影響を及ぼし、輸出品質の生食用ブドウの供給がより強く制限された。これらの主要な問題は両方とも2022/23年度にも存在したが、その程度ははるかに小さく、輸出量が回復した。前述のように、今シーズンの気象条件は通常よりも乾燥すると予想されており、これは生食用ブドウの生産量と品質の回復の前兆である。これにより、輸出品質の生食用ブドウ生産量がさらに増加し、2023/24年度の輸出を後押しすることが期待される。

図5 オーストラリアの生鮮生食用ブドウの主要輸出先



出典: オーストラリア統計局

図6 中国の生鮮ブドウ主要輸入先



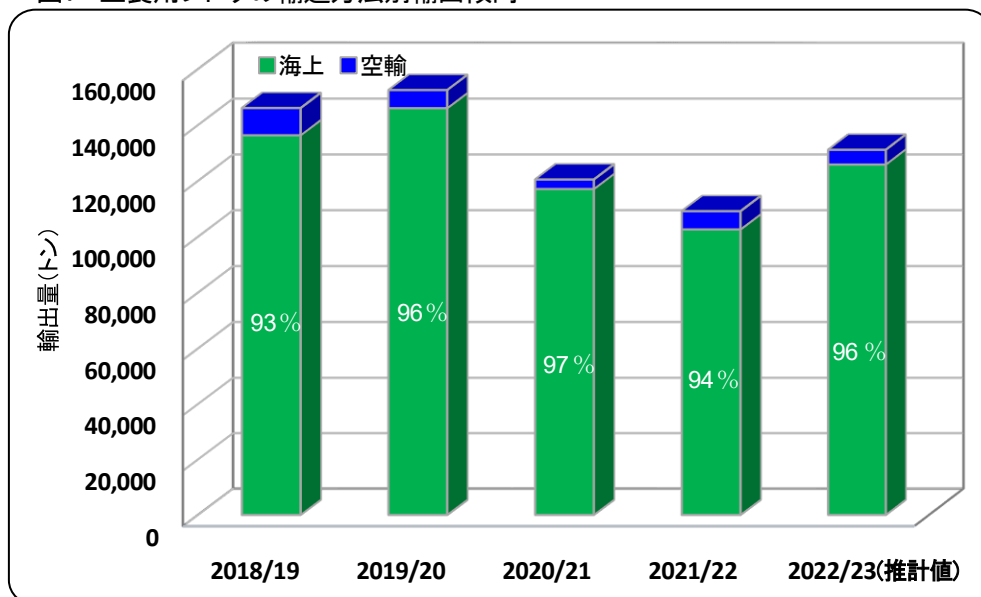
出典: オーストラリア統計局

中国は長年にわたりオーストラリアの生食用ブドウの主要な輸出先であり、通常は総輸出量の3分の1以上を占めている。インドネシアもまた、ベトナム、フィリピン、タイ、日本、香港等他の一連の国々とともに、この数年主要な出荷先となっている。この輸出先のグループは、一貫して生食用ブドウ輸出全体の80～85%を占めている(図5参照)。

中国の生食用ブドウ輸入の約4分の1はオーストラリアからであり、他の2つの主要な輸入先はチリとペルーである。これら3か国は、中国の生食用ブドウ輸入量の90%以上を供給している(図6参照)。オーストラリアの輸出業者にとっての主な利点は、中国に到着するまでの輸送時間が南米諸国からは約35日かかるのに対し、18～20日であるということである。前述のように、近年、オーストラリアの生食用ブドウ生産者は、ブドウの新植を輸出市場で人気の高い権利関係の有る品種に集中させてきた。南米の輸出国よりも主要市場から近いことを踏まえ、これらの要因がオーストラリアの生食用ブドウ輸出業者を支えている。

生食用ブドウは冷蔵で非常によく貯蔵できる青果物であり、コストの高い航空貨物ではなく、冷蔵輸送コンテナによる海上輸送が可能である。過去10年間の冷蔵低温輸送の物流と温度監視の改善により、海上輸送される輸出貨物の割合は近年、83%から約95%に増加した(図7参照)。航空貨物による少量の輸出は、主にシーズン初期のプレミアム市場向けのブドウである。

図7 生食用ブドウの輸送方法別輸出傾向

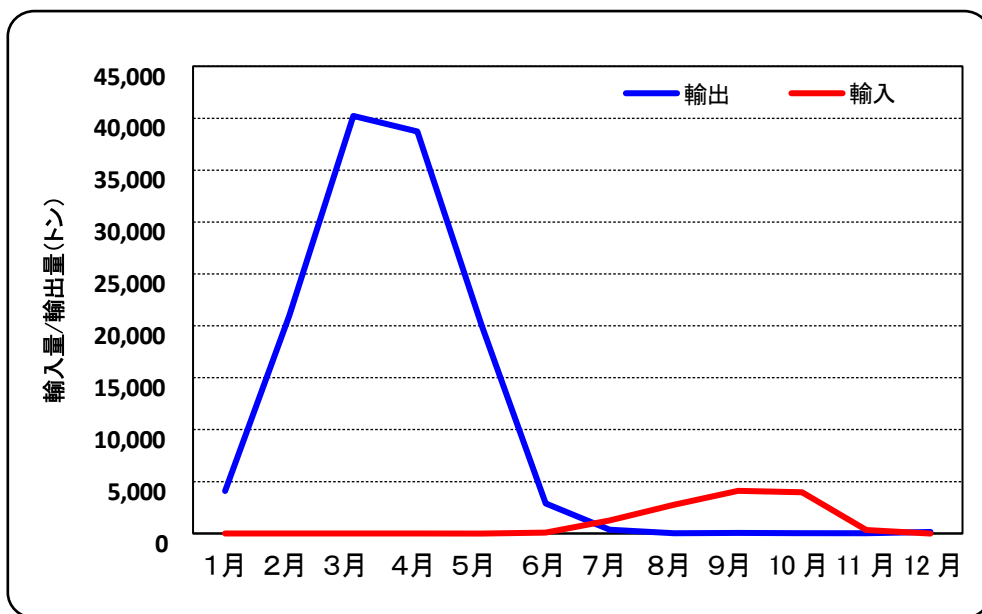


出典: オーストラリア気象庁及び当事務所

オーストラリアの輸入量は、下方修正された2022/23年度の推計値である7千トンから、2023/24年度には1万トンに増加すると予想される。オーストラリアによる生食用ブドウの輸入はほぼすべて米国からであり、そのほとんどはカリフォルニア州からのものである。カリフォルニア州では今シーズン生産量が増加するが、それにもかかわらず、2022/23年度のオーストラリアの輸入は通常よりも少ないと推定される。初期の報告では、供給や出荷の問題は示されていないが、今シーズンはオーストラリアの小売部門からの需要が軟調になっているようである。

輸入はほぼ全量がオーストラリア産の出荷が無い7月から11月の間に米国から行なわれる(図8を参照)。したがって、米国から輸入したブドウについては、国内供給や他の輸入先からの生食用ブドウとの競争圧力はない。

図8 オーストラリアのブドウ輸出入の季節性(5カ年平均)



出典: オーストラリア統計局

オーストラリアの生食用ブドウの生産需給統計

生食用ブドウ(生鮮) 販売年度の始まり オーストラリア	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
商業的生産量	196,000	196,000	200,000	210,000	0	220,000
非商業的生産量	0	0	0	0	0	0
生産量合計	196,000	196,000	200,000	210,000	0	220,000
輸入量	10,000	10,000	15,000	7,000	0	10,000
総供給量	206,000	206,000	215,000	217,000	0	230,000
生鮮国内消費量	96,800	96,800	85,000	85,800	0	90,000
輸出量	109,200	109,200	130,000	131,200	0	140,000
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向量	206,000	206,000	215,000	217,000	0	230,000

単位: ヘクタール、トン